

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	大空と大地のなーさりい第二南大塚園
施設所在地	東京都豊島区南大塚2-26-15 南大塚ビル3
法人名	株式会社キッズコーポレーション

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な物への興味関心を深めて考える力を育てる

<テーマの設定理由>

身近なものに興味をもっているが「なんだろうね」で終わっていることが多くあった。より深く考え友だちや保育者と発表し合いながら探求してほしいという願いから設定した。

2. 活動スケジュール

9月25日 「音・いろいろな音を出して遊ぼう」講師による実践	9月30日 保育士による活動
10月23日 「風船ロケット」講師による活動	10月30日 保育士による活動
11月20日 「立体視、補色」講師による活動	11月27日 保育士による活動
12月4日 「凧」講師による活動	12月13日 保育士による活動
1月29日 「錯覚」講師による活動	1月31日 保育士による活動
2月26日 「空気、摩擦」講師による活動	2月28日 保育士による活動

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・「音」の活動後、様々な音に興味が高まる様、ウッドブロック、木琴を購入し、音の違いに注目しそこから広がり発表会では保護者の前で合奏を披露したり、スケッチブックテープ類の紙を踏み鳴らし劇の効果音として使用した。
- ・風船ロケットや凧の活動で創作意欲が湧くように、紙類やテープ類、絵画用品等を購入。又、近年洋服が汚れる事に対して厳しい家庭がいる為ダイナミックに活動できる様、スモックを購入。
- ・記録用にカメラ、SDカードを購入、ドキュメンテーション作成等に役立てた。
- ・保護者会にて保護者の方に説明する為、プロジェクターとスクリーンを購入。
- ・教材を一人ずつ置ける様、棚を購入し、子どもがやりたい時に自由に取り出せるよう保育室内に常設した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【音】身近な物を使用して紙芝居に出てくる動物の音を表現した。翌週どんな音があるのか発表した。

【風船ロケット】風船ロケットを作りどのようにしたらより遠くまで飛んでいくのか試行錯誤した。ビニール袋での風船作りでは、袋を縛っても空気が抜けてしまうことに気が付き、テープを貼ったり、空気の入れ方を試行錯誤した。

【立体視、補色】補色体験ができるイラストを普通に見た後赤セロファンのみ、3Dメガネを通して見た。マーカーペンを使い自身で立体に見えるイラストを描いた。

【凧】紙の性質を知り、折ると強度が強くなることを知った。オリジナル凧を一人ひとり作った。たこ糸の位置によって飛び方が変わるので考えながら付けていた。

【錯覚】二つの矢印が描かれたイラストをみてどちらが長いか考えた、同じ長さでも矢印の向きによって長さが変わって見えることを知る。変わり絵を自分で製作した。

【空気】透明な袋をどのようにして膨らませるか考え空気の存在に気が付き、次に大きな袋をどのようにして膨らませるか考えた。大きな袋を膨らませて乗ってみたい、触ってみて感触を楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「不思議！なんで？」と興味を持ち楽しむ姿がみられた。ロケットや空気の実験ではどのように空気をいれるか友だち同士で考えうちわや袋を開いて走って空気を入れる、扇風機を使うなど様々な意見がでた。自分の考えを発表するときは体を使って表現していたり、お散歩の時に見えるスカイツリーなど普段見ているもので分かりやすく伝えようとしていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自分の考えを発表することを始めは緊張している子もいたが、回数を重ねるごとに堂々と発表する姿がありよい経験になったと思う。自分の考えと友だちの考えが違うことを知り、違う考えを褒めあうこともあった。子どもならではの視点や考えが多くあり保育者も気づかされることがあった。